

河川管理のほうからそういう形で行くわけではありますが、しかし、大滝消防長申し上げたとおり、非常時には違うんだというところで、特に今の奴奈川用水については、常日ごろから消防署がいろいろ点検をいたしております。取水口の状態とかというのを見ております。ただ、そういった、だけど細かい水路の中で、どっちへやるんだ、こっちでやるんだというのは、やっぱり一番のそのこの責任者でございます農業の方々が、組合をつくって管理をいたしておるわけでございますし、その辺をやはり、今回もといいましょうか、これは今、奴奈川用水組合はそういう形になっておりますし、ほかのところは、またどうなっておるか分かりません。

それはやはり、昔からの消防の水利や警備用水路とか、いろいろ地域地域で、実情そういう形で管理運営しているところがございます。例えば、集落のほうで何かあったときには、消防団が見るんだということもありますし、いろんなどころがあります。その辺はやはり、これから少し整理をしながら、誰でもわかるような常日ごろの管理と、非常時の管理というのも、私はこれから、少しみんなでもう1回再確認をしなくちゃいけないんだろうと思っていますし、特にこの奴奈川用水につきましても、都市のやはり火災にも大きく影響しているというところで、今回のあり方検討会の中でも取り上げていただいております状態もあろうかと思うわけでございますし、我々も、これをしっかりと検証していきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

災害は忘れたころにやってきます。しっかりとこの教訓を生かして、今後に生かしていただきたいと思います。

ありがとうございます。一般質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。〔1番 吉川慶一君登壇〕

○1番（吉川慶一君）

ご苦労さまです。創生クラブの吉川慶一です。よろしく申し上げます。

1、糸魚川市駅北大火の検証と今後の対応についてお伺いします。

昨年の12月22日に発生した火災が強風により延焼拡大し、住宅、店舗、企業等合わせ、147棟、約4万平米が焼失しました。糸魚川は昔から南風が強く、今回の風速は、フェーン現象により秒速27メートルに及び、蓮華おろしとも言われています。火勢は1時間後には飛び火し、130m離れた建物が延焼したと聞き、まさに想定外だったと思われます。火災は30時間後に鎮火となりました。

旧糸魚川町内は、過去多くの大火が発生しています。歴史的には、1932年12月21日に発生し、横町、本町、大町の368戸を焼失させた大火災に次ぐものであります。

今後の市街地の復旧・復興で、都市計画、区画整理、新しい道路整備、消防水利整備の検討がされ、新しいまちづくりを計画されていると思うが、今回の火災をどのように検証し、何を教訓とされたのか。また、今後の対応についてお伺いします。

- (1) 今回の火災をどのように検証し、何を教訓としたのか。
- (2) 課題と教訓を、今後どのように生かすのか。
- (3) 今後の住宅密集地の火災への対応と、中心市街地活性化の取り組みについて。

2、糸魚川市沿岸海域における漁場環境の現状と今後の環境整備について。

私は、このことに関連し、一般質問で提案しましたが、その後の経過と進捗状況について再度お伺いします。

当市は、北に日本海を、南に北アルプスの名山を擁するほか、幾多の小山が海岸まで迫り、急峻で緑の深い地勢を形成しております。

また、河川には長野県の奥地を源流とする一級河川姫川を初め、山々の谷間を縫って流れる二十数本の小河川が存在しますが、いずれも短小狭隘であります。

山を育てることは、海を育てることとよく言われます。しかし、山々は、人手の入らないまま放置されている杉林で覆われ、密林の様相を呈しており、そのことが河川水を極度に疲弊させ、沿岸の荒廃の主因となっているとして、危惧する向きも多々あります。放置林のみならず、営農縮減の影響も無視することはできません。

生物の産卵や小魚のすみかとなる、海のゆりかごと呼ばれる藻場を駆逐する磯焼け現象も顕著で、連日豊漁でにぎわった浦本沖の寒ざし漁場から、スケソウダラが完全に姿を消した現状など、典型的な例であります。河川水によって運ばれるミネラル、植物プランクトン、動物プランクトン、小型魚、中型魚、大型魚といった、食物連鎖の根底となる河川水の病的症状が主因とされております。

水産業は、当市においても重要な基幹産業の1つです。問題解決には長い年月を要すると考えられておりますが、このような厳しい状況を把握されておられるかどうか、具体的に次の項目について、考えをお伺いします。

- (1) 浦本沿岸で、磯焼け現象が発生している状況をご存じですか。
- (2) 浦本沿岸の漁場が、流入する河川水の疲弊によって極度に荒廃、主要種族が絶滅したり、激減しているとされていますが、その事実をご存じでしょうか。
- (3) 上記2件は、ともに営林・営農のありさまに起因するとされておりますが、有効な対策をお考えでしょうか。
- (4) 水産行政におけるこれまでの重点施策及び今後の取り組み方針についてお伺いします。

以上を1回目とします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、総務省消防庁の消防あり方検討会において、今後、取り組むべく火災予防、消防活動、消防体制などの充実強化について当市も加わり、課題等を検証し

ているところであります。

3点目につきましては、被災地における災害に強いまちづくりをもとに、密集市街地における防災力強化と活力とにぎわいのあるまちの再生に向けて、取り組んでまいります。

2番目の1点目につきましては、15年ほど前から、磯焼けが見られるようになったとお聞きいたしております。

2点目につきましては、タラなどで漁獲量が大きく減少していることは承知をいたしておりますが、河川水の疲弊による漁場の極度な荒廃によるものではないと考えております。

3点目につきましては、地球温暖化等に起因しているものと思われませんが、引き続き森林の整備や耕作放棄地の拡大防止に取り組んでまいります。

4点目につきましては、漁業経営の安定対策や、漁業施設の整備、産学官連携による6次産業化の推進に取り組んでいるところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

2回目の質問をさせていただきます。

大変な火災であったと思いますが、冒頭に消防団員並びに消防団の活躍を、心からお礼申し上げたいと思っております。

先ほど言った火災の検証、これ、私も過去に例がちょっとないので、なかなか想像もできないので、いろいろ過去を検証しながら、ちょっとこれからお伺いしたいと思っております。

まず最初に、今回、非常に強風であったということでございます。この強風について、消防署としてどのように対応されたのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

消防署の各諸署から指揮隊車、救急車を含む消防車両7台が、第一出動を行いまして、まずは逃げおくれがないことを確認することと並行いたしまして、消防ホース7線で四方からの放水を行っております。飛び火等による延焼を確認後は、消防車両等の増強、それから応援要請、水利の確保、住民避難など、状況に応じた対応を行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

先ほど、笠原議員も指摘ありましたように、非常に判断が難しい出動ではないかなと、私も思っておりますが、台数が当消防本部にある台数を、全部出動したとお聞きしておるわけでございますが、果たしてその台数で間に合うかどうかちゅう判断も、大変難しかったんじゃないかなと思っております。

そこで、まだ若干お聞きしますが、強風下の防御態勢、指示、的確な出動態勢、これらで本当に十分であったのかどうかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

現場指揮本部の指揮のもと、消防活動、応援体制、消防水利の確保など、的確であったというふうに思っております。強風による飛び火により、消防力が火勢を上回るのに時間を要したということではありますが、初動体制は十分であったというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

初動体制が十分であったと、わかりました。

ということは、中心市街地で、大変、防御にはまず出動途上でも十分検討されてきたと思うんですが、火災防御戦術、これが当時の指揮者として十分であったのかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

先ほども申し上げましたけれども、消防車両とか7台出動し、ホース7線で四方から放水を行ったということでもあります。この初動対応の火災防御戦術ということは、このことは基本的な体制ということで、とることができたということで、十分機能していたと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

戦術、やはり大火、強風で、なおかつ大火の予測ができたわけですので、大変な出動であったと、私も思っております。

ただ、ここで大変、喜ばしいことですが、火災に遭われた人たちは、大変お気の毒なんです、このたびの火災で死者がなく、負傷者が少なかったと、これは本当に戦術的には、うまくいったんじゃないかなと、私は思っております。

ただ、このときに、やはりこれだけの大火ですから、避難勧告をやっぱりしなきゃならんと思わ

れる。避難勧告の発令、この判断、避難誘導は、どなたが本当に指示を出して、この行動を起こさせたのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

日中、昼間の火災であったということ、それから防災行政無線、安心メールにより避難勧告を発令した後に、警察等によりまして避難誘導、それから市職員による安否確認等、また住民同士の声かけ等があって、避難をしていただいたというところでございます。

飛び火による延焼が確認され、その後、拡大するおそれがあると判断した時点で、避難対象エリアを選定をいたしまして、避難所の指定等も行い、12時22分に避難勧告を発令したものでありまして、避難勧告の発令者は、糸魚川市長でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

素早い指示を出して避難誘導をとったおかげで、結果が大変よかったということでないかと思うんですが、やはり、今、思えば、連携を着実にとるということが、大きな戦術に結びついていくわけですが、何しろ早い判断がよかったと思っております。

そこで、先ほども笠原議員が質問しました水利の件で、ちょっとお話をお伺いします。市内に中心市街地に、消防水利施設等がたくさんあると思うんですが、この水利の件で、お話をお聞きします。

まず、施設を有効に利用されて充実していたかということと、水利確保の指示を的確に出さないと、非常に戦術的に不備が出てまいります。これを、当然、職員は知識は十分あると思いますが、やはりこれだけですから、最終的には応援体制が出てくるわけですが、このときの水利確保をどのように指示を出したのかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

まず前段の、水利が充実していたかということだと思いますが、そのことにつきましては消防水利の基準ということで、国の基準に照らし合わせて、特にこの被災エリアについては100%満たしていた、充足をしていた、という状況でございます。先着した消防隊が消火栓、それから自然水利、今回は奴奈川用水でありますけれども、を活用をいたしております。

水利確保につきましては用水を取り入れ増水をし、枯渇防火水槽、それから簡易水槽へはミキサ一車、それから給水車を要請をしております。また、消防団ポンプからの給水、大容量の送水車による送水などを行いまして、水利を確保したというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

消防水利100%充実。消防力の基準から見て、多分、充実していたということでしょうが、先ほどから言っておるように、奴奈川用水を利用どうだという話が出ましたので、若干、お聞きしますが、奴奈川用水に消防車何台ついたか、おわかりでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

申しわけございません、少しお待ちいただきたいと思います。

奴奈川用水には、合計17台、部署しております。消防署が1台、それから消防団が16台でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

多くの台数をついたわけですから、これだけの大火ですから、当然、水がないとかあるとかって、いろんな声を聞きました。これからの課題でないかなと思っております。

それで今度、署と団の関係を、若干、お聞きします。

消防団の出動態勢及び防御態勢、この消防団全団員が出動してもらったと思うんですが、出動態勢と防御の態勢、これについてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

消防団の出動態勢とか防御態勢は適正にできたか、指示ができたかというようなご質問かなというふうに思います。

火災時につきましては、消防団幹部も現場本部に入っておりまして、消防署と連携をした中で、指揮活動を行っております。火災の状況に応じた適正な指示のもと、最終的には消防団全分団の出動を行っておりまして、火災防御活動に当たっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

大変ご苦労さまでした。

それから、応援体制について伺います。先日の新聞、また国・県等々の話を聞きますと、応援体制の見直しをしなければならんということがありました。そこでお聞きします。

応援体制の近隣県下の消防本部の応援支持をいただいております。今後、広域連携の財政支援をしようとしております。この、効率的に何か県から指示がありましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

近隣の消防本部との連携につきましては、協定等につきましては、県内では上越消防本部、県外では、富山では新川地域の消防本部、長野県では北アルプス消防本部というふうに、近隣では結んでおります。

笠原議員の市長からの答弁にもありましたように、今後、新潟県と連携をいたしまして、特に富山県内の消防本部との応援体制いうものを、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ぜひ、応援体制を、近隣応援体制をとっていただきたいと思います。

先日の新聞を見ますと、消防庁のほうから、広域連携財政支援ということが出てまいりました。複数の消防本部と業務提携をせえと。このシステムを、指令装置等ですか、このシステムをやりなさいというような話なんです、詳細ちょっとわからないんですが、これはどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

このことにつきましては、平成20年以前に国のほうから、それこそあり方検討会ということで、消防の広域化というようなことが示されました。当時は、人口30万人規模の消防の広域化ということでありましたけれども、なかなか進まないという状況がございました。

その後、今、議員が言われたように、消防本部の現状はそのままとしても、例えば通信指令システムを共同運用をすとか、部分的なところでの連携というようなことであると思います。それに伴いまして、国のほうが、財政的な支援をするということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

+

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

大変大事なことで、ひとつ早目に財政支援を受けるように、よろしく願いいたします。

続きまして、今回、中心市街地の件で、一般の初期火災ですね、火災の初期対応、これがやっぱりこれからどの火災でも必要だと思うんですが、これをどう指導していくのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

このことにつきましては、先ほどから何度も出てまいりました、国のあり方検討会、総務省消防庁のあり方検討会での検討を行っておりますけれども、当市も一緒になって検討をしております。

また、住民による初期消火ということは、これ大変重要なことでありますことから、引き続き、出前講座などで火災予防指導、それから初期消火方法の指導も、徹底をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

初期対応が、大変必要かと思えます。それにあわせて、地域住民の地域コミュニティが、やっぱりしっかりしていただかないと、延焼が防止できないか思っております。

そこで、市内の自主防災組織がどのくらいあって、防災訓練の実施状況、これはどれくらいありますか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

現在、自主防災組織は、市内全域で76組織、組織率でいいますと83.4%でございます。これは、今月2月1日現在のものであります。今後も、この自主防災組織の組織率の向上、それと中身といいますか、その辺を向上させていくというふうに努めてまいりたいというふうに思っております。

また、防災訓練等につきましては、平成24年から、全市一斉で実施しております。これは、東日本大震災以降、毎年実施をしております。これは、約、住民の皆さんの20%が参加をいただいているということでもあります。そのほかでも、各地区において、独自の訓練を実施をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

まだ、もう少し達成してもらわないと、100%に届かないということがわかりました。

この防災訓練を、そのときあわせてしていただいておりますが、初期通報装置とか初期消火訓練、それから避難のかけ声運動、こういうものを生かしていただくということと、防災訓練に、やはり防災意識を向上していただかないと、やっぱり大火に結びつく危険性が出てまいります。これらを、どのように指導しておるのかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

議員言われるように、防災意識、防火意識の向上というのは、非常に重要なことであるというふうに考えております。繰り返し訓練を行って、防災意識の向上を努めてまいりたいというふうに思っておりますし、出前講座とかそういう開催要請を受けるのみではなくて、地域へ声がけしたり、こちらからも出向いて指導をさせていただきたい、一緒にやっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

まだまだ検証が行き届いてできてないと思うんですが、これがまず第一だと思いますんで、ひとつぜひ、早目に進めていただきたいと思います。

そこで、ちょっと話、変わらせていただきまして、新しいまちづくりに、災害に強いまちをつくと、新構想で言っております。この件について、復興推進課のお考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

復興まちづくりの視点を3点、災害に強いまち、にぎわいのあるまち、住み続けられるまちと捉えておりまして、大火が繰り返されない災害に強いまちづくりに向けまして、市民の皆さんのご意見を丁寧にお聞きしながら、また、まちづくり計画を策定いただく検討委員会の皆さんの検討もお聞きしながら、8月中までには計画をつくり上げていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ぜひ、これをモデル地区といいますか、型にさせていただいて、全地区に広めていただきたいと思っております。よろしくお伺いします。

続きまして、市内には密集した地区がたくさんあります。今みたいのを必要なんですが、教訓をぜひ、早く取り組んでいただいて、災害のない、また、発生しても小規模で済むようなまちに、また、地域にしていきたいと思っておりますので、お願いいたします。お考えどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

○建設課長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃられるとおり、市内には、都市計画区域内、あるいは中山間地においても木造の住宅が密集しておるといところが、点在しておるといふふうに思っております。その中で、どのような形で今回の火災を教訓にして、防災力向上を考えるかといったことにつきまして、なるべく早い段階で、市としても方針を立てる必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

よろしくお願ひします。

火災の件について、もうちょっとお聞きします。現消防隊についてちょっとと、団員についてお伺ひいたします。

消防隊と消防団員の現況を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

消防本部につきましては、1本部、1署、2分署、1分遣所に消防職員が90人、うち消防員が85人であります。

消防団につきましては、消防団本部、それから3方面隊、糸魚川、能生、青海というところの3方面隊から成り、消防団員は1,040人あります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

その職員と、団員についてお伺ひしますが、この定員で大災害に対応できると思いますか。私は、今の大火には、非常に大変であったのではないかと。そういうことになると、広域化が必要だと、こうなるわけですが、やはり消防団員が今、非常に不足しておるっちゃうか、消防団員のなり手が少ないということをお聞きしております。ぜひ、この辺を、いま一度お考えをさせていただいて、消防

団員を強化することをお願いしたいと思います。

じゃ、その強化するためには、消防団員の方は、常日ごろ職業を持っておられるわけで、非常のときだけですから、どうしても資機材等にはなれがありません。こういうものに対して、やはり軽量化をしていただくとか、訓練をしやすいものにしていただきたいと要望するところでございます。

それで、最後に市長にお伺いしますが、この都市計画の消防力の整備を早い段階で見直していただいて、起動力と職員の増強、これらのお考えをお伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前段でもお答えしたとおり、今、あり方検討会の、今その検討結果で検証をさせていただいて、それによって、消防の職員なり、消防の資機材の充実というものに、もう一度、やはり再検討させていただきたいと思っております。

また、消防団員の増強につきましては、やはり今、人口減少であったり高齢化の状況の中においては、やはり今、非常にまだまだ足りないところが見受けられるわけでございますので、現状でもやはり、そういった状況でありますので、その充実、また確保のために取り組んでいきたいと思っておりますし、あわせて今、今回の火災に対しての検証の中で、そういったものを捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ぜひ、市長、よろしくお願いします。

じゃ、時間の都合上、2番目へ移らせていただきたと思います。2回目の質問、させていただきます。

先ほどから、磯焼けについて、私、何度も文面でお話しさせていただいたんですが、磯焼けを、場所は限ってお話ししたんですが、この浦本地区の調査、対策を行った事例がありましたら、教えていただきたと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

磯焼けにつきましては、市で実施したということはありません。浦本地区においても、実施をしておりません。

ただ、新潟県が能生の百川地区で磯焼けの調査を実施をして、実際、その磯焼け対策としまして、藻場造成事業を現在、実施しておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

昨年もお聞きしたんですが、進んでないということを、今、お聞きしたんですが、能生地区では事業を進めておると。ぜひ、浦本地区も調査していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

現時点におきまして、浦本地区の調査計画というのはございません。

ただ、今、吉川議員からのお話もありますように、磯焼けが進んでおるという状況でございますので、新潟県とも協議をしながら、調査・検討について、進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

現時点でないということじゃなくして、ぜひ、検討の中へ入れていただきたいなと思います。

続きまして、磯焼けといいますと、磯焼けを治るまでには、相当時間がかかるとお聞きしております。ぜひ、調査をして、どんな対策をすればいいのかわかると、ひとつご検討願いたいし、漁獲量が減少してるということもお聞きしております。その理由はどういうことであるかわかると、私、若干、専門でないので、何とも申し上げられないんですが、関係者にお聞きすると、非常に疲弊しておると。河川水が疲弊しておって、漁場が荒廃しておるということを言っております。ぜひ、調査していただきたいんですが、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

河川の水が海にどういう影響を及ぼすかというような、具体的な調査については、今のところ実施した経過もございませんし、今後も、具体的な計画というのは、正直、持っておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

だめですか。ということが、私がお聞きしたいことですが、さてはそうは言ったって、第一産業じゃないけど、本当に必要でございます。漁師の方にお聞きすると、減ってきておると。何とか調査してくれと、こう言っております。やはり、お魚がとれないということは、市民にも大きな影響

が出るんじゃないかなと思います。私とすりゃ、流入する河川水が疲弊して、影響しているんじゃないかと思います。

ぜひ、再三くどいようですが、磯焼けの状況とあわせて、調査していただきたいと思いますが、再度お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その漁獲量というのは、何を指して言っていたらいいのか、ちょっとその辺はわかりませんし、ただ、今、各河川は非常に環境が、以前に比べてよくなっておる状況がございます。ただ、上流部での変化というのは、やはりこの耕作放棄地であったり、この森林の手入れがなされていないというところがございますが、しかし、広葉樹がふえておる状況もございます。そういったことを考えたときに、果たして河川水の疲弊という現象なのかどうかというのは、ちょっと私は、はかりかねる部分がございます。

いろいろと最近の中においては、これは糸魚川だけではございませんが、やっぱり温暖化という1つの流れにおいては、いろんなこの漁獲量、魚種の中の漁獲量に変化があらわれておる部分がございます。また、以前はとれてなかったこの魚種もあるわけございまして、そういったところを、どういう捉え方をすればいいかというのは、今、お答えした中で、皆さんと今、協議をした中でありますが、なかなかお答えしにくい部分でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

全くなかなか難しいっちゃうか、目に見えることでないので、また、長い間かかっている、先ほど言われたように、そりゃ温暖化の影響もあるでしょう。生活環境の影響もあるでしょう。それは、あると思いますが、関係者としては、そういう問題もあるということですので、ただ、言えることは、森林整備・保全がやはり影響が、大きな影響を占めるんじゃないかと思っております。

糸魚川市は、森林が約87%ぐらい占めておるとお聞きしております。この広大な森林を、やっぱり整備していかないと、海や川の環境保全に影響するんじゃないかと、こうなっております。

ぜひ、これらもあわせて、やはり長い間かかった中で行かないと、解決が見えてこないと思っております。ぜひ、水産行政においても、ぜひ、取り組みをお考えいただきたいと思っております。ぜひ、こういうこの件について、環境整備を、ぜひ、政策に取り組んでいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

議員のお話にありましたように、山の荒廃というのが少なからず、海の環境にも影響を与えておるといふふうに認識をしております。

糸魚川市につきましては、森林の面積が約9割ということでありますので、この森林の保全・整備につきましては、ぬながわ森林組合が中心となって、森林系計画の作成だとか集約に取り組んでおるわけでございますけれども、そういう施業に対しても、積極的に支援をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

当地区では、海洋高校が非常に海に魚種をいろいろ育てていただいたり、コンブ等の栽培もしていただいておりますので、大変ありがたいことでございます。それらをあわせて、海洋の環境を、やはり整備していかなきゃならないと思っております。ぜひ、関係機関と連携をとっていただきたいとお願いするところでございます。

これについて、ぜひ、今後とも調査に加わっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

確かに、海洋の調査ということになりますと、専門的な知識だとか技術というのは、必要になってくるというふうに考えております。したがって、市だけでは決してできる調査ではありません。今ほどありましたように、当糸魚川市には海洋高校という水産高校もございますので、そういう海洋高校、それから新潟県、また漁業関係者、そういう方々と、いわゆる産官学そういう連携を組み合わせながら、資源の保護・保全、そして海洋の環境の保全に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ありがとうございます。

じゃ、糸魚川市でも、先ほど冒頭でお話しさせていただきましたように、重要な基幹産業の1つだということをご認識していただいて、これからは資源を守ると、海の環境を守りながら、ひとつ水産産業の振興を図っていただきたいとお願いするところでございます。ぜひとも、産官学で、ひとつよろしくお祈いします。もちろん、農林水産とは一体となって取り組んでいただくことをお願いしまして、質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

ここで暫時休憩をします。

再開を2時45分といたします。

〈午後2時34分 休憩〉

〈午後2時45分 開議〉

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

質問に入ります前に、この場より、糸魚川駅北大火で被災された皆様に、謹んでお見舞いを申し上げます。早期の生活再建と地域復活を、心からお祈り申し上げます。

では、発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

1、高齢者等のお出かけ支援について。

- (1) 高齢者のお出かけ支援について、糸魚川市の現状と課題を伺います。
- (2) 高齢運転者に関する交通安全対策について伺います。
- (3) 認知症患者への対応について伺います。
- (4) 運転免許返納者への対応について伺います。
- (5) 高齢者等の生活・通院・交流等のための手厚いお出かけ支援策を求めます。いかがですか。

2、全ては強風のせいなのか、糸魚川大火の原因と検証について。

- (1) 初期消火対応の不足、危機感の欠如などについて伺います。
- (2) 過去、糸魚川で起きた大火の教訓は活かされたのか伺います。
- (3) 今回の大火に学ぶものは何か伺います。

3、大火からの復興まちづくり、糸魚川再生の計画づくりについて。

- (1) 大火からの復興、糸魚川再生の計画づくりは誰のためのものか伺います。
- (2) 被災者支援のルールと、その公平性について伺います。
- (3) 道路拡幅や消防力強化など、火災に強いまちづくりについて伺います。
- (4) 商業地の再生や観光客誘客の仕組みによる、人が集まり稼げるまちづくりについて伺います。
- (5) 多世代が交流し、高齢者が元気に過ごせる、住みたくなるまちづくりについて伺います。